

四日市港管理組合議会ニューズ

Yokkaichi Port Authority Assembly

第 42 号(平成 29 年 2 月発行)

平成 28 年 3 月 18 日(金)に平成 28 年第 1 回定例会が開会され、3 月 25 日(金)に一般質問と議案 13 件の審議が行われました。

一般質問では、石田成生議員(三重県議会選出)と土井数馬議員(四日市市議会選出)が下記のとおり管理組合執行部の見解を質しました。

主な質問・答弁要旨

石田 成生 議員



○ **四日市地区は施設の老朽化が進んでいるが、バルク貨物を扱う公共岸壁として重要な役割を担っている。物流の面から、四日市地区の現状と今後に向けての考え方について伺いたい。**

◎ 四日市地区は、現在でも、四日市港全体の貨物量の 4 分の 1 を取り扱っており、四日市港の物流拠点の一翼を担う重要な地区であり、今後も物流機能を維持していく必要があるが、港湾施設の老朽化は著しく、また、大型の船舶が係留できない岸壁など、現在の物流形態に合わない使い勝手が悪い施設もある。このため、貨物の配置換えや機能の転換など、ソフト面での対応も十分にしながら、選択と集中の考え方のもと、集約できる施設は集約をして対応していきたいと考えている。また、今後も必要な施設については、予防保全型の維持管理計画や上屋等改修基本計画に基づき、点検や改修を行っていく。

土井 数馬 議員



○ **霞 4 号幹線から南向き道路を整備して新名神等の高速道路へのアクセスを強化して、広域交通アクセス網を充実させることにより、四日市港利用による陸上輸送コスト削減が図られ、取扱貨物量の拡大につながると考えられるが、御所見を伺いたい。**

◎ 霞ヶ浦地区からの南向き道路について、国道 1 号北勢バイパスや新名神高速道路等の高規格道路網と接続をすれば、四日市港の利便性はさらに向上し、利用促進に寄与するものと考えられるが、具体化するためには、交通需要、費用対効果、環境に対する影響などの検証が必要となり、また、膨大な事業費がかかることが予想される。このことから、霞ヶ浦地区からの南向き道路については、既存の道路交通体系をしっかりと見据えた上で、中長期的な課題と捉え、高規格道路網の今後の整備にあわせ、全体的な臨港交通体系のさらなる充実という観点から、引き続き国土交通省、特に中部地方整備局との意見交換を行っていききたい。

※詳細な質問答弁等については、当組合議会ホームページ会議録をご覧ください。